

ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

- 一 單衣
- 一 裕
- 一 綿入衣
- 一 襦袢
- 就役服
- 一 單短衣
- 一 裕短衣

一 綿入短衣

一 襦袢

一 股引

雜具

一 蒲團

一 蚊帳

一 莞筵

一 枕

一 帶 長三

一 襪 長三

一 手巾

一 監
一 笠

以上ノ貨物品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋瀝補綴
シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

- 一 下白米十分ノ四
- 一 挽割麥十分ノ六
- 一 同 七合 強キ力業ニ服スル者
- 一 同 五合 輕キ力業ニ服スル者
- 一 同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ
- 一 同 三合 滿十歳以上ノ未決者
- 一 菜 十歳未滿ノ幼者
- 一 菜 金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條

工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及
ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ
食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ
得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食
物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得
ス

第七十條

在監人日用ノ雜費 淋瀝補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人
一日金壹錢二厘以下トス 其他一身ニ係ル日常諸費

第七十一條 監房常置ノ器具

- 一 貯水器并ニ飲器
- 一 木製

一唾壺

一便器

一小箒

一洗手盆

同木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナルモノ木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト

混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病 附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ溫ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵蔓ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告ス

ヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并莅テ之ヲ驗
屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シ
タルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル
時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ
許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ
遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名
標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次
トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信
ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於
テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラズ
第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢
事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス
第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信
ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス
第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ
書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ論示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム
親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキコトナキトキハ之ヲ許シ看守長看守立莅テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分

時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物炊烹ヲ要セサルモノニシテ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開ケモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ長否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閱ニ供シ又ハ其

尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ
易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ
二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容
止ヲ正フスヘシ 未決監ニハ
此款ヲ除ク
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及
ヒ席壁圍厨等ヲ掃除スヘシ

二 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾キ貯水ヲ濫用ス
ルヲ禁ス

二 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ
交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス

一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩ス
ルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭
博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻
ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス

二 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部
外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 未決監ニハ
此款ヲ除ク

- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ
- 一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時

内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ擧ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章 賞譽

第九十六條 已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄

ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄

衣ノ左袖ノ表面ニ方二寸曲ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據

ト爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第百二條 懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五

錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第百三條 已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス
- 二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス
- 三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
- 四 閉室 閉室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第四百條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閉室ハ七晝夜ヲ限トス

減食閉室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第四百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第四百六條 獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重

ヲ量リ第四百三條第四百五條ニ準據シ減食スルコトヲ得

第四百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第四百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又

ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上

五年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索

ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ縲帶セシメ縲帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ

在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例

ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シ

テ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ
服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯紳ノ法ニ從フ

第百十條 減食或ハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲ
シテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第百十一條 屏禁減食閉室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄
若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教師

師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第百十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ルトキハ之
ヲ免スルコトヲ得

第百十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令
ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

〔典獄(捺印)〕 懲治人名籍 主檢 書記 (名氏印)	
本出生地管	何國郡村產 國郡村番地住何某男弟 族籍 何某 女妹
年氏族出本	年某 月某 日生 當何年何月何年何月
懲治人及ヒ 尊屬親ノ營業	懲治人ノ營業 主願者タル尊屬親ノ營業
親屬	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無
入場ノ年月日	明治何年月日午前後第何時入場
入場ノ事狀	長何尺何寸何分肥瘠強弱
身材	

() 此括弧ヲ付スル者及ヒ下段ハ總テ朱字以下同シ

營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男或ハ女 收監ノ時何歳何ヶ月
入監ノ年月日時及ヒ罪件	明治何年月日午前第何時入監 何罪ヲ犯ス
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ 姿態其他痘斑瘰癧子癩瘡黑痣癩風天鰓創 癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ普 ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ

書信ノ贈答 ヲ許ス月日	明治何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ 書信來
營該官ノ氏名	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨 監セシ官吏ノ氏名
保釋責付	明治何年月日保釋若クハ責付
事變	明治何年月日病死或ハ脫監
終結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行 又ハ他監押送

〔典獄(捺印)〕

已決囚名籍

主檢

書記 (氏名印)

本出生	管地籍名	年氏族	營業及ヒ親屬	乳兒	提携	刑名及ヒ宣	告ノ月日	判所ノ名	收監ノ年月日
某管下國郡町番地	何國郡村產	何某	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	男若クハ女 收監ノ時何歳何ヶ月 父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキ ハ之ヲ詳記ス		何刑若干年月日	明治何年月日	何裁判所ニ於テ宣告	明治何年月日午後第何時入監

五十二

犯由ノ大畧	身材	容貌音聲	教育及ヒ宗門	入監中ノ賞罰	書信贈答ノ年月日
財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ長何尺何寸何分肥瘠強弱	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘰癧、瘰癧、癩風、天、黧、創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來	

五十三

假出獄免幽閉	明治何年何月何日假出獄或ハ免幽閉
事 變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監 或ハ何罪ヲ犯シ復々未決監ニ入ル
終 結	明治何年月日滿期放免特赦

假出獄之證票

某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女

族 籍

某年某月某日生

身 材
名籍ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌
上ニ全シ

罪質犯數
刑名刑期
及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

- 一 此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ
何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約子何日迄ニ到着シ
テ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住
宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事
- 一 此者ハ本期限間特別監視ニ付セラレタル事
此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルハ直ニ
出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル
- 一 此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯
留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此
證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル

ル事 右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

明治何年 月 日

署 印

某 監獄署

長官 何某 印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證票ノ裏
 面若クハ欄内ニ左ノ二款ヲ附記スヘシ
 一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官
 ニ送リ遣シタル事
 一警察官ヘ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何
 日ニテモ受取得ヘシト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナ
 リト認定ノ上ニ非サレハ一次ニ之ヲ渡サ、ルヘキ
 事

何管下某監獄署○在監人

料紙半紙

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫ス
 一書信ノ文句規則ニ背キタルコトアルトキハ其送致ヲ
 止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

日 月 年 治明○紙信書

五十八

表 限 時 役 服 徒 囚

月/時 名/限	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
起 床	前 午 七 時 〇 二 分	六 時 三 十 八 分	六 時 〇 六 分	五 時 三 十 二 分	五 時 〇 一 分	四 時 四 十 九 分	四 時 五 十 分	五 時 十 六 分	五 時 四 十 八 分	六 時 二 十 二 分	六 時 五 十 二 分	七 時 〇 八 分
就 役	前 午 八 時 〇 二 分	七 時 三 十 八 分	七 時 〇 六 分	六 時 三 十 二 分	六 時 〇 一 分	五 時 四 十 五 分	五 時 五 十 一 分	六 時 十 六 分	六 時 四 十 八 分	七 時 二 十 二 分	七 時 五 十 二 分	八 時 〇 八 分
小 憩	前 午 十 時 〇 二 分	第十 五 分 時 間	同 上	第十 五 分 時 間	第十 五 分 時 間	同 上	同 上	同 上	第九 時 五 十 分 時 間	第十 五 分 時 間	同 上	第十 五 分 時 間
午 飯	正 午 十 二 時 〇 二 分	十 二 時 〇 二 分	同 上	同 上	十 一 時 三 十 分 時 間	十 二 時 〇 二 分	同 上	同 上	同 上	十 二 時 〇 二 分	同 上	十 二 時 〇 二 分
罷 役	後 午 三 時 三 十 分	三 時 五 十 分	四 時	四 時 三 十 分	五 時	五 時 二 十 分	五 時 十 分	四 時 五 十 分	四 時 二 十 分	三 時 四 十 分	三 時 二 十 分	同 上
晚	一 時 二 十 八 分	一 時 三 十 二 分	一 時 五 十 四 分	一 時 五 十 八 分	一 時 五 十 八 分	一 時 五 十 四 分	一 時 五 十 九 分	一 時 五 十 四 分	一 時 五 十 一 分	一 時 四 十 九 分	一 時 四 十 八 分	一 時 三 十 二 分

(一)

(二)

時 間	上	時 間	十分 時	上	上	上	時 間	十分 時	上	時 間	時 間	時 間	憩
五十二 十分時 間	同	同	十二 時時 間	同	同	十二 時時 間	一十二 時十分 時間	同	同	一十二 時時 間	午正 五十二 十分時 間	午	飯
同	三時二十 分	三時四十 分	四時二十 分	四時五十 分	五時十 分	五時二十 分	五時	四時三十 分	四	三時五十 分	午後 三時三 十分	罷	役
(一) 一時三十二 分間	一時四十八 分間	一時四十九 分間	一時五十一 分間	一時五十四 分間	一時五十九 分間	一時五十四 分間	一時五十八 分間	一時五十八 分間	一時五十四 分間	一時三十二 分間	一時二十八 分間	晚	飯
(二) 四時五十二 分	五時〇八 分	五時三十七 分	六時十一 分	六時四十四 分	七時〇九 分	七時十四 分	六時五十八 分	六時二十八 分	五時五十四 分	五時二十二 分	午後 四時五 十八分	還	房
六時十二 分間	六時十三 分間	七時〇三分 間	八時十二 分間	八時〇四分 間	八時四十九 分間	九時〇五分 間	八時五十九 分間	八時三十八 分間	七時三十五 分間	六時五十七 分間	六時二十八 分間	服役時間合計	

(一) 約子日出ノ時刻
 ナ以テ起ルノ時刻
 刻々トナス然ルニ
 年々季節ニ早晩
 アリ日々加ルニ
 差刻アリ別ニ
 東國西國ノ何レ
 ノ此ニ由テモ
 ノ地方ニ於テモ
 ノ地ニ異ナキ
 ナ秒ノ差ハサキ
 ナ保ツ能ハス故
 ニ月毎ニ大ノ故
 ラ平均シテ姑ク
 其起床時刻ヲ登
 載ス各地ノ別ニ
 宜此表ノ區別チ
 準シテ役因チ遇
 酌シテハシ

(二) 右ノ時間ニシテ
 工器ヲ併理シ及
 ヒ器浴等ヲ爲サ
 シム

(三) 約子日没ノ時刻
 ナ以テ入監ノ時
 トナス

賭博犯富籤處分規則

○賭博

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候
ヘ共當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方
官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
右奉 勅旨布告候事 (明治十七年一月四日太政官第一號布
告)

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月巳上四年巳下ノ懲罰及五圓
巳上二百圓巳下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ
其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ
博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ攜帶

二

シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリモ之ニ立入ルヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得

○富籤

富籤行之儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新之折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戾リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事 (明治元年十二月二十三日太政官布告)

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス (明治十五年五月廿四日太政官第二十五號布告)

第一條 凡ソ富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月

三

四

以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトチ間ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徴スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

賭博犯富籤處分規則終

五

明治十七年十二月五日出版御届
同 十八年一月出版
同 年五月廿一日別製本御届

定價四拾錢

編輯人

吉田春盛

東京府士族
東京京橋區越前堀壹丁目
四番地

出版人

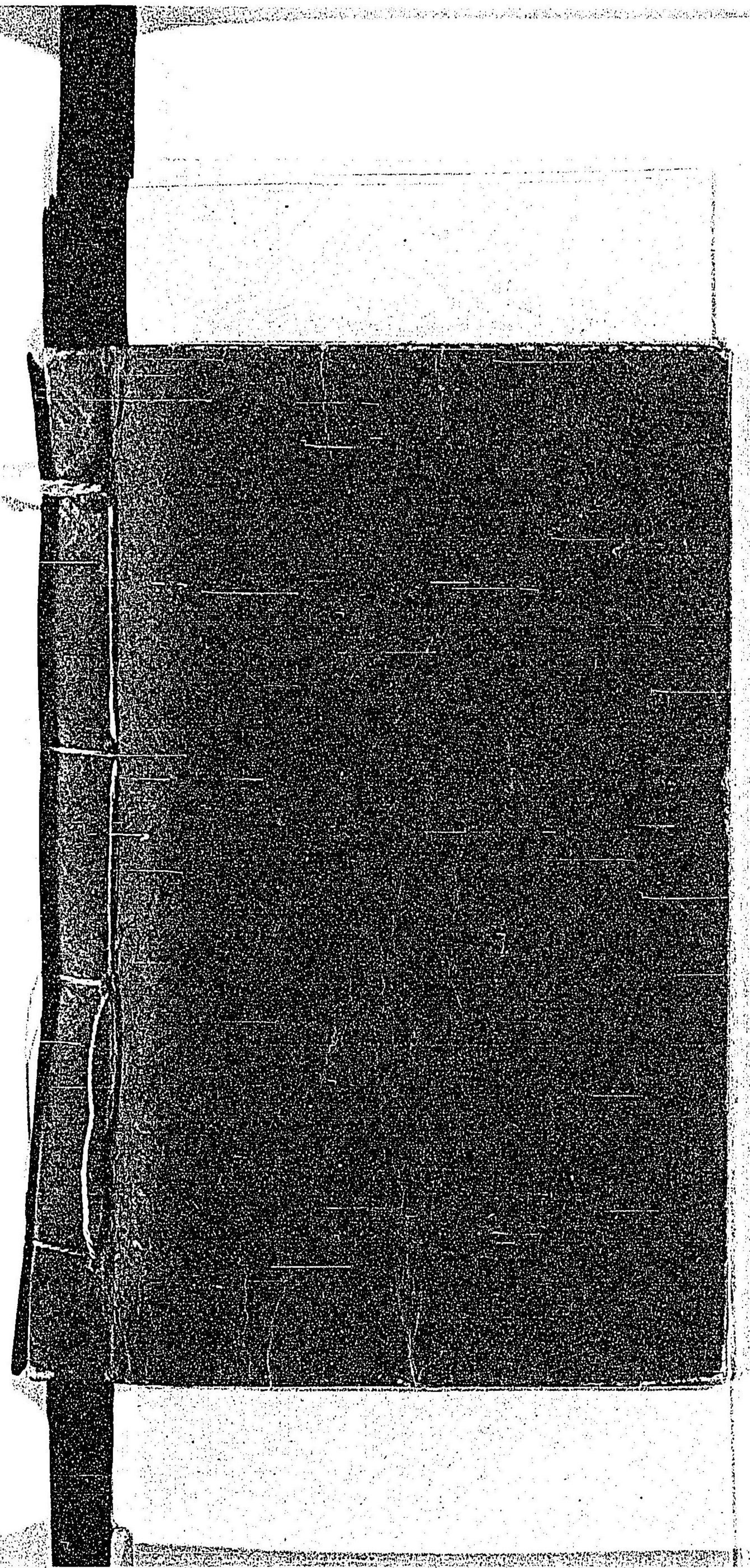
須原鐵二

東京府平民
同 日本橋區西河岸町
拾二番地

印刷所

稻田活版所

同 京橋區元數寄屋町
四丁目貳番地





036321-000-6

CZ-691-011

陸海軍刑法治罪法・監獄則賭博犯規則・富籤処分規則

吉田 春盛/編

M18

BBQ-0022

